

③③ 吉野川^{かつみょう}勝命堤防事業（吉野川下流一連堤防の完成）

受賞機関 国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

キーワード 吉野川、ヨハネス・デ・レーケ、勝命堤防、無堤地区の解消

全建賞審査委員会の評価ポイント

吉野川下流左岸の勝命堤防の整備事業。本事業の完了により、明治18年以降、136年かけ吉野川下流区間の一連堤防が完成した。先人が整備し、嵩上げ・補強してきた堤防を受け継ぎ、更に強化してきた本事業の経験・技術・ノウハウは後世に引き継ぐ貴重な財産となるものであり、その功績は大きいものである点が評価された。

1. はじめに

吉野川は、その源を高知県吾川郡^{かめがもり}の瓶ヶ森（標高1,897m）に発し、徳島県池田において東に向かい大小の支川を合わせながら、紀伊水道に注ぐ幹線流路延長約194km、流域面積約3,750km²の一級河川である。

吉野川流域は四国全域の2割に匹敵する広さを持ち、拠点都市である徳島市を擁し、四国における社会・経済・文化の基盤となっている。

また古くから流域の人々に恩恵をもたらすと同時に、ひとたび大雨が降ると毎年のように洪水被害が発生してきた。近年においては平成16年8月から10月にかけて連続して洪水が発生しており、特に平成16年10月に発生した台風23号による洪水では基準地点岩津で戦後最大流量を記録し、吉野川が氾濫して浸水面積7,645ha、床上浸水745戸、床下浸水1,975戸と甚大な被害となった。

2. 事業の概要

勝命箇所（吉野川下流左岸）は、河口から約35km上流に位置し、洪水による浸水被害が頻発してきた。吉野川では平成16年10月に発生した台風23号と同規模洪水による被害防止を目的として、築堤工事等を進めており、勝命堤防はそのうちの1つである。

吉野川改修工事は明治17年のヨハネス・デ・レーケによる「吉野川検査復命書」に基づいて実施され、明治18年に国・県はそれぞれ低水工事・高水（堤防）工事に着手した。

その後、洪水等による工事中止など紆余曲折を経ながら、明治40年の「第一期改修工事」では江戸時代に伊澤亀三郎が築いたものと伝えられる小堤防部分の嵩上げを施工するとともに、「第二期改修工事」では更なる堤防補強工事を実施した。

3. 事業の成果

令和3年7月、勝命堤防の伊沢市工区（上流側）・谷島工区（下流側）で堤防（約2.4km）と樋門（3基）の整備が完了した。明治18年から令和3年にかけての136

年にわたり整備を進めてきた吉野川下流区間（岩津～河口まで約40km区間）の一連堤防が完成したことにより、当該区間の悲願である無堤地区の解消が達成された。

先人の方々によって懸命に嵩上げ・補強されてきた堤防を受け継ぎ、今回の築堤工事によって勝命堤防事業完了となった。



伊沢市工区（上流側）の堤防



谷島工区（下流側）の堤防



勝命堤防竣工式

4. おわりに

勝命堤防事業は明治期より先人から受け継ぎながら進められ、令和3年7月に完了した。今回の完了によって、吉野川の治水安全度が一層向上し、流域における益々の発展が期待される。